

<第1回>

200H5024

ミスター バーンズ RC

～多くの魅力を備えた赤因子種雄牛～



ホルスタインジャーナル 2011年3月号



シーニックエッジ MRB ジョリンレッド/WDE2010 フォールイヤリングインミルク主席

200H5024 デュドック ミスター バーンズ (DUDOC MR BURNS:VG EXTRA)は赤白でも黒白でも娘牛達に非常に高い生産能力と機能的タイプを伝達する。カナダ、オンタリオ州のシーメックス アライアンスが所有する魅力にあふれたこのレッドキャリアーの種雄牛はアウトクロスの血統と相まって生産者に知られるにつれ益々人気が出ている。

ユニークなペディグリー

ケベック州セイントクロアのデュドック牧場とセイントアントアン デ テリーのレナド牧場とが共同で繁殖したミスター バーンズは 2002 年 7 月 25 日に生まれた。シーメックスの遺伝と研究担当の前任副社長、ピエール ラリベルテによると、シーメックスがこの種雄牛を買ったのには幾つかの異なった理由があった。

ミスターバーンズの父、200H2902 マーキムサンダー (VG-ST) は父、コムスター リーダー (EX-EXTRA) と母の父、ノリーレイク クレイタス ルーク (EX-90-USA-GM-SP) から産出されシーメックスの後代検定プログラムに異質のものを持ち込んでくれたと彼は説明する。”リーダー“はカナダだけでなく国際的にも人気種雄牛であったが彼の息牛で人工授精に供された頭数は多くはなかった。

ミスターバーンズの母、マギーはケベックで高く評価された”チェリーレッド“の一族である。しかも、このヤングブルは赤因子を持つ点で我々にはこの種雄牛を購入する有力な理由の一つであった。

ミスターバーンズの父は必ずしも広く知られた種雄牛ではなかったが、母型の血統は決定的に優れていた。“チェリーレッド”一族は 10 年以上カナダのLPIカウリスト上位を独占し特に高能力で広く認知されていた。

ミスターバーンズの母、グランダック マギー ストーム ET (VG-87-4*) はストームの赤因子を持つ娘でケベック州ルダックとフレレレティ牧場の 2001 年グランダック ディスパーサルセールで 4 歳級を \$ 15,000



母牛：グランダック マギー ストーム ET VG87-6YR

でデュドックとレナド牧場が共同で購入した牛である。マギーは 3 度のスペリア ラクテーションを記録し、最高の記録は 21,934kgM 3.9% 848kgF 3.1% 685kgP(407-423-390)である。彼女の生涯記録は 77,385kgM 3.7%F 3.2%P (319- 316-308)で 3 頭の VG の娘牛を残した。マギーはシーメックス所有の 200H4163 グランダック トリビュート (VG-EXTRA) の同父母兄妹でトリビュートはレッドキャリアーでミスターバーンズが出てくるまではこのファミリーで輩出された著名種雄牛であった。

マギーとトリビュートはグランダック マーラ アスター (VG-85-11*) の産子で、マーラ アスターは”アスター“の娘でLPIカウリストで 2 度トップにランクされ 4 歳級で 19,303kgM 4.2%F 3.6%P (333-382-374) の記録を持つ。マーラはかの有名なクローバーランド スカイラーチェリー レッド (VG-87-DOM-12*) の 7 頭の VG と 1 頭の EX の娘牛の内の 1 頭である。ローブジャン スカイラー チーフを父に持つこの米国産の牛は 1989 年グランダック ホルスタイン牧場が購入した。その後彼女は 4 歳級の乳量、乳脂肪、乳蛋白でカナダチャンピオンとなる 20,277kgM 3.8% 768kgF 3.0% 617kgP(412-420-390)の 305 日記録を達成した。これは赤白牛の乳量世界記録でもある。ひ孫息牛に赤因子を伝承しチェリーレッド自身が世界のホルスタイン改良に多く貢献すると同時にこの一族がハイインデックス、能力、体型を一包みにした遺伝力を伝達できることを証明した。

ミスターバーンズは 2003 年の夏にヤングサイアとして検定が開始された。

彼は常にケベック州のCIAQ(ケベック人工授精所)の牛舎で飼養されたが、最初の検定はシーメックス アライアンスのパートナーであるカナダ西部のウェストジェンの管内で行われた。彼のファーストクロップ娘牛はあまり多くなく 70 頭程度でそのほとんどが大型牧場のフリーストール牛舎での飼養管理下にあった。ミスターバーンズの第一回目の成績は 2007 年の 2 月に出た。いきなりLPIの 3 位に顔を出すという大いに人目を引くデビューであった。同年 8 月の成績では一挙にLPIのトップに躍り出てSP(スペリアプロダクション)の評価を手にした。2 年後の 2009 年 8 月には早くも Class-Extra (クラス-エクストラ) サイアーに認定された。

彼の安定した成績は3年に亘り11回の成績で常にLPIの上位7番以内に位置づけられた。今日、セカンドクロップの娘牛が搾乳記録を完了し始めホルスタイン種の中でベテラン種雄牛のベストの1頭の地位を維持している。現在、ミスターバーンズはGLPI+1986で31位にランクづけられその成績は1237牛群 1931娘牛 +1425M +45F +68Pである。体型成績は+10である。カナダのセカンドクロップ種雄牛の中で乳蛋白ではトップの1頭である。2203頭の娘牛が体審を受けその70%がGPかそれ以上で1頭のエクセレントと228頭のVGがいる。彼の唯一のEX娘はブリティッシュコロンビア州のアビビュー牧場で繁殖、飼養されているアビビュー ミスターバーンズ 560(EX-91)でファーストクロップの黒白の娘で最近の記録は15,161kgM 3.5%F 3.0%P(263-244-240)である。



アビビュー ミスターバーンズ 560 EX91

ミスターバーンズは、ホルスタイン黒白斑でも赤白斑でも両方のブリーダーの人気種雄牛となっている。当初彼はその父系の血統のユニークさで黒白と赤白両方のブリーダーに訴えるものがあり幅広く使われた。シーメックス アライアンスのサイアー アナリストのマイク ウェストは、“確かにアウトクロス血統と赤因子が彼を魅力ある種雄牛にしているが、体毛の色に関係なく多くのブリーダーを引き付けているのは結局のところ彼の能力と体型の成績の高さである”と言っている。“それに彼のブレのない極めて安定した成績が彼の精液が使われる期間を長くしているし毛色に関係なくホルスタイン種のトップブルの1頭にしている。”体型的に彼の一番強い伝達能力は非常に正しい構造の肢蹄と極めて幅広な後乳房の付着である。これらの牛は搾乳能力が非常に高いし、能力と体型の両方で他の牛を凌駕している。”とウェスト氏はコメントしている。更に彼はミスターバーンズは多くの娘牛に体高、鋭角性、バランスの良さを伝達していると言っている。仮に注意すべき点があるとすれば前乳房の付着の長さや強さくらいかなと。それと体細胞スコア(SCS)の高い牛には使うべきでないと彼はアドバイスしている。

ミスター バーンズはその血統故にいろんな種類の牛に使われた。
体型の主要な部位に改良が必要な牛や生乳生産量や乳蛋白量を求めたい牛にうまく機能した。
彼の赤白斑の娘牛について言えば彼は全く新しい遺伝子レベルの可能性を注入したと言える。
世界中の赤白牛に高い能力で未永くその影響力は継続するであろう、とウエスト氏は言っている。
(続)



スミスデン ミスターバーンズ ダナ VG87-2YR

**SEMEX WORKS
EVERYWHERE**